

【広島県】 校務DX計画

1 国の動向等

令和5年3月に文部科学省が取りまとめた「GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」において、次世代校務DXの方向性として、

- ・ クラウドツールの活用により、教職員等の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化を可能とすること
- ・ 校務支援システムのクラウド化と教職員用端末の一台化により、ロケーションフリーで校務系・学習系システムへ接続可能な環境を整備すること

などが示された。

2 本県の現状

文部科学省が実施した「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」の自己点検の結果については、令和5年度と令和6年度を比較すると（※1）、次のとおり、クラウドツールを活用した校務DXの進捗が見られる。

項目	R5結果	R6結果	進捗状況	全国のR6結果
保護者へ発信するお便り・配布物をクラウドサービスを用いて一斉配信している学校の割合（※2）	31.6%	52.6%	+21.0%	48.9%
教職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを取り入れている学校の割合	89.5%	94.7%	+5.2%	77.0%

※1 令和5年度の結果は、令和6年3月公表の確定値。令和6年度の結果は令和6年12月公表の速報値。

※2 「完全にデジタル化している」と「一部している（半分以上）」の回答の合計。

3 取組の方向性

県立学校については、既に校務系・学習系のクラウド環境の導入、校務支援システムのクラウド化及び教職員用端末の一台化など、次世代校務DXの基盤となる環境整備が完了しており、引き続き、クラウドツールを活用した校務DXに取り組んでいく。

FAX・押印の廃止については、学校が保護者等に求める押印の廃止について県立学校へ周知するなど、既に取組を進めているところであるが、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」の自己点検の結果を踏まえて、引き続き、取組を検討していく。

また、校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の削減に向けて、より効率的な各種システムとの連携の在り方などについて、引き続き、検討していく。